

メダカ池の保全と周辺環境の維持、 並びにホタルの生育環境の維持保全活動

一宮ネイチャークラブ

代表 原田 正樹

千葉県

1. 「一宮ネイチャークラブ」設立の経緯とこれまでの活動

一宮町は、房総の東にある九十九里浜の南端に位置し、小さい町ながら海・川・平地・山が凝縮された土地です。都心にも比較的近い位置にあり、都心への通勤者も多く住まう町でもあります。

町の山間部にあたる松子地区には、江戸時代末期に造られた「洞庭湖」と呼ばれている農業用水用の人造湖があり、これを山沿いに谷津を遡る水路を、松子川と呼びなしております。この谷津田の集落が松子といわれるからです。

一宮ネイチャークラブは、この松子地区の地主の方のご好意により休耕田をお借りして、平成13年に、「松子川ネイチャークラブ」の名称で活動を開始いたしました。

前年より一宮町立東浪見小学校内の池において、町内の水路で採取された一宮町在来のメダカを児童等が飼育していましたが、当時の塚田二三夫校長の呼びかけにより、松子地区の休耕田にメダカ池を造り、これを保護してゆくこととなったものです。

このとき町内有志の皆様にご協力を募り、相談した結果、無農薬栽培による稲作水田とメダカ池をつくり、その管理やこれに付随する事業を目的として当会が結成されました。あわせて周辺の遊歩道の除草なども同時に行ってゆくようになり、本会の母体となる「松子川ネイチャークラブ」がスタートしました。



(1-①)平成13年にメダカを放流した当時

東浪見小の児童が制作した看板



(1-③)稲作体験田(7月下旬)

平成13年に、東浪見小学校の児童達により、数百匹のメダカがここに放流されると、翌年には隣接する水田、水路(松子川)にも大小のメダカが確認されるようになりました。メダカたちは短期間のうちにここで数十倍以上に繁殖しました。

以来、会員が協力しあい、稲作体験、水田や水路の生物の観察会、隣接する「町営憩いの森」という山林を利用した自然公園などでの自然体験その他の行事などここに集う活動を通じて、多くの皆様に自然にふれあい、その大切さや生き物と私たちの生活との繋がりについて感じていただく場をつくりたいとの思いで活動して参りました。

そして私どもは、この水田とメダカ池が、児童生徒を対象とした体験学習用の場であると共に、地域の自然環境の象徴であると自負しております。



〈1-②〉 児童の作ったメダカ池の看板

また一宮町は、海・川という自然の資源にも恵まれた場所であるため、海や川での自然を知るための観察会なども毎年行っております。

さらに本年度から、これまでとは違った形での企画の行事として、「いちのみや森林木100選」や、他団体との交流事業「つくって、あそんで、一宮！」なども実施いたしました。



〈1-③〉 メダカ池と遊歩道



〈1-④〉 メダカ池に隣接する観賞用の蓮田



〈1-⑤〉 水田から活動地域周辺を望む



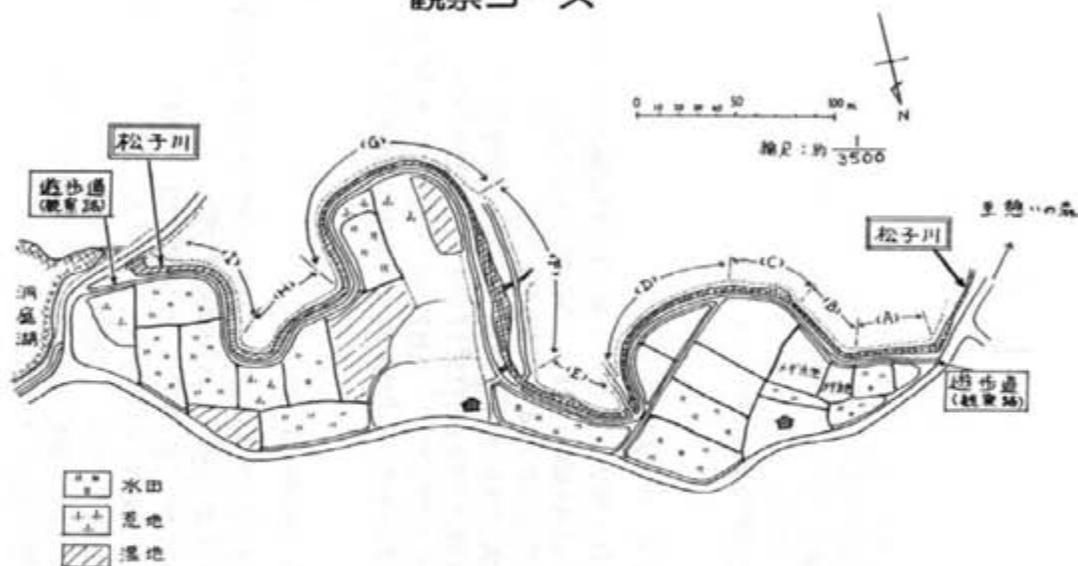
〈1-⑥〉 水路と遊歩道、左はメダカ池

2. 活動の中心としている地域の自然環境と当会の活動

当会主として活動している地域にある松子川（後の図〈2-①〉）は、上流部の「大欠の堰」という農業用水用の堰から下流にある「洞庭湖」と呼ばれる同じく農業用水用の堰湖の間をつなぐ全長 1200 m ほどの水路です。この水路は、平成 12 年までに、農村自然環境整備事業の一部として水路の改修がされると共に遊歩道も併設されました。

改修前には南側斜面と水田の間に自然に形成され改修されてきた水路を、部分的にはコンクリートの護岸などもありますが、石を使用した蛇籠などによる工法も利用して、比較的自然の状態に配慮したかたちで整備が行われました。〈2-①〉はその中下流部の 800 m 程の区間をあらわしています。

観察コース



〈2-①〉松子川と周辺図

〈2-①〉の区間では、水路の南側に山を背負って曲がりくねっていますが、現在はこれに沿って水田との間に遊歩道が整備され、散策が出来るようになっています。

ここは、JR 上総一ノ宮駅、東浪見駅よりそれぞれ 3 km 前後と比較的近く、休日平日を問わず洞庭湖を通して散策する方もいらっしゃいます。

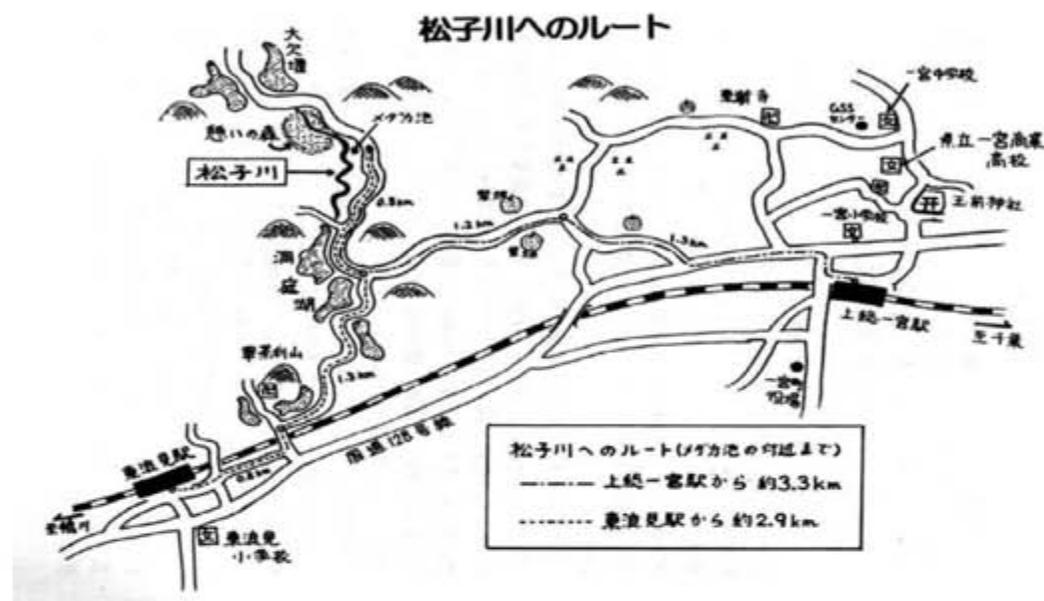
この集落の農地はほとんどが水田でしたが、入り組んだ谷津の奥で、元々民家も少なく、いずれも高齢化のため、休耕地が圧倒的に多くなっています。そのためこの周辺は、農業や化学肥料が余り使用されることもなく、家庭雑排水の流入も少ないという野生生物には恵まれた環境になっています。ここが私どもの活動には適した場所となったのは、こうした条件も幸いした為です。

私どもは、〈2-①〉の水路の A-E 区間に沿った水田 3 反余をお借りして、一部をメダカ池などとし、残りの 1.5 反弱を水田として利用しています。その水田の一部は、子供達を中心とした稲作体験田として、残りの部分是有志に任せる形で管理（オーナー田という形

式をとって) しています。そして、一定面積の水田を守り、なるべく休耕田を少なくしてやることで、水田を取り巻く里地のメダカの生育環境が保たれ、生き物の多様性が確保できるような環境作りに役立てるようになることを目的としております。

活動開始以来、かつてこの場所で多く飛び交っていたというゲンジボタルも多数見られるようになり(年により各種の環境条件により増減はありますが)、更に、近年全国的に減少傾向にあると言われるヘイケボタルも徐々に増加しています。

また、4年ほど前にこの周辺で、陸生のクロマドボタルも確認され、現在この周辺で3種類のホタルが確認されています。



(2-②、現地へのアクセス)



(2-③ ゲンジボタル幼虫の上陸)



(2-④ ヘイケボタル)



(2-⑤
ゲンジボタル)



(2-⑥クロマド
ボタル幼虫)

3. 平成18年度の事業活動

活動内容の行事の名称等については、以下の事業報告の一覧によってあげます。なお、本会の行事・活動には、助成対象となった活動内容以外の事業も含まれます。

主な助成対象にあたる行事及び関連行事については★印を付けてあります。

月 日	内 容 等	備 考
4. 1 (土)	総会	
15 (土)	★運営委員会 (春を食べよう・田ごさえ準備・稲作体験オーナー田の検討)	6名
23 (日)	★自然観察会「春を食べよう」	28名参加
5. 7 (日)	★田ごさえ及び草刈作業	20名参加
14 (日)	★田植え作業、ハウスビニール張り	100名参加
6. 3(土),4(日)	「ホテルサミット in いすみ」(夷隅文化会館)	10名参加
6. 9～15	★松子ホテル観察週間 (※観察週間以後にホテル出現がピークとなった)	
6. 17 (土)	★草刈・田草取作業	20名参加
7. 9 (日)	★ザリガニ釣り大会・松子川の生き物観察	48名参加
7. 15 (土)	★草刈・田草取作業	15名参加
8. 6 (日)	自然観察会「海辺の観察会」	20名参加
20 (土)	自然観察会「干潟の生き物観察会」	雨天中止
9. 2 (土)	第2回運営委員会 (宝酒造からの補助について)	7名
9. 17 (日)	★稲刈り・おだかけ作業	41名参加
10. 1 (日)	★脱穀作業・黒米刈取り・脱穀	25名参加
10.	自然観察会「水の中の小さな生き物の観察会」	中止
10. 22 (日)	第3回運営委員会 (収穫祭・文化祭について)	6名
11. 3～4	★一宮町文化祭展示発表 (活動報告ならびに『いちのみや森林木100選』発表)	
11. 11 (土)	★ビニールハウス補修作業	9名参加
11. 26 (日)	第4回運営委員会 (収穫祭について)	6名
12. 3 (日)	★収 穫 祭	53名参加
1. 6 (土)	第5回運営委員会 (自然観察会について)	6名
2. 4 (日)	★観察会「冬の森で焼き芋づくり (春をまつ生き物の観察)」	52名参加
2. 10 (土)	第6回運営委員会 (自然観察会について)	5名
3. 11 (日)	企画行事「つくって、あそんで、一宮！」	76名参加
3. 28 (水)	玉前神社 桜開花宣言	20名参加
31 (土)	第7回運営委員会 (決算及び次年度事業計画について)	7名

4. 各行事の報告 (活動助成の申請に関連の行事)

(1) 自然観察会「春を食べよう ～ 春の松子川周辺の生き物調べ」

平成18年 4月23日(日) 10:30～13:00

天候: 曇りのち小雨、参加者: 26名(大人; 13名、子供; 13名)

雨が降り出しそうな曇り空のもと、初めに講師より松子川周辺に生息するホタルの資料が配られ、ホタルや生き物についての話がありました。そして会員が採ってきておいたタケノコをアルミホイルに包み、それぞれが焚き火の中に入れました。

出来上がるまでの間にみんなで生き物の観察です。メダカ池や蓮田にはオタマジャクシやメダカが群れ、川底を小石ごと網ですくうと、カワニナ・スジエビ・トビケラ・ヨシノボリ・まだ小さなサワガニ…などがとれました。ルーベも使いながら観察すると、子供達は小さな生き物に夢中でした。

その後に、憩いの森を皆で散策しながらミツバなどを摘み、集合場所の広場へと戻りました。広場では焼き上がったタケノコと、ミツバ入りのタケノコの味噌汁をいただきながら、弁当を広げ普段とはちがった野外での楽しい昼食の時間となりました。

昼食終了頃に雨が少々強くなり始めたところで、閉会となりました。



〈4-A 川の生き物に夢中な子供達〉



〈4-B みんなでタケノコを食べる〉

(2) 田ごさえ及び草刈作業

平成18年 5月7日(日) 9:00～12:00、

天候: 晴れ、参加者: 20名

集合時刻前から会員の皆さん、オーナー田の皆さんが三々五々集まり、それぞれに周辺の草取りなどを始めていました。前代表の相さんが、トラクターで今年稲作予定の水田とその周辺を起こしてくれました。このあたりの谷津田は昔から水が切れない泥田だったために、今回もまた、トラクターがはまってしまうトラブルはあったものの、昼頃には除草、田起こし、代かきがほぼ終了しました。

(3) 田植え作業、ハウスのビニール張り

平成18年 5月14日(日) 9:30~12:00

天候: 小雨のち曇り、 参加者: 約100名(大人約40名)



〈4-C 田植えをする子供達〉



〈4-D 田植えをする子供達〉

朝からの曇り空でいつ雨が降り出すのか気が気でない天気でした。子供達は最初のうち泥の中に入るのに抵抗があって大騒ぎをしていますが、始まってしまえば賑やかになかなか上手に植えていました。小さい子供達を含めて、子供会では70名以上の子供・大人が参加して、とても楽しい田植えになりました。小雨交じりだったので、カッパを着ながらの作業でしたがいつの間にか夢中になって植えていました。

小さい子の中には格好だけで、根を泥中にしっかりと差し込めずに、後を見ると苗が浮いてきてしまう所もいくらかありましたが、人数も多いので1時間程のうちに全て終わってしまいました。広場の方でも、しばらく手を加えていなかったビニールハウスのビニールを張り替える作業が進んでいました。

(4) 松子ホテル観察週間(平成18年 6月9日~6月15日)

この期間には、ホテルの発生がほとんど無く、事実上観察が出来ませんでした。ほんの数頭ずつのホテルが確認できただけでした。昨秋から周辺には、餌となるカワニナが極度に減少していたことも不安材料だったため、この時点で会員一同は、今年のホテルは絶望的かと考えておりました。ところが、観察週間を過ぎた頃からゲンジボタルの成虫が多く見られるようになり、殆ど間をおかずにヘイケボタルも発生しました。翌週からかなり多く出現して、昨年並みの数を数えるまでになりました。



〈4-E 松子川6月上旬、ゲンジボタル〉

ホテル発生の遅れとしては、今年は初春からの寒さが厳しく、4月になっても気温が充分あがらない日が多かったことが原因として考えられます。また、今年の特徴としては、

ゲンジボタルとヘイケボタルがほぼ同時期に現れて飛び回る姿が見られたことです。

ゲンジボタルが主に生育するエリアは、水路全体の内でも300～400m程度と短く、しかもその中でも川底に砂が堆積している場所もあり、多くの個体数が生育できるほどの十分な条件とはいえませんが、ピーク時には100頭以上の個体が確認できます。ここでは、保護などの名目で人の手を加えたりする事は全くせずに、ただ周辺の草を刈り、わずかの水田を残そうとしているだけです。私たちがこうしてボタルに出会えるのも自然の微妙なバランスの恩恵であると感じさせられます。

結果としては、心配していたよりかなり多くのボタルを確認することが出来ましたが、今年の状況を見て、あらためて今後この地区でのボタルに関わる調査にも力を入れてゆく必要を感じさせられました。

(5) 草刈・水田および周辺の除草作業

平成18年 6月17日(日)、 9:00～12:00

天候： 晴れ、 参加者： 20名

5月に子供達が植えた体験田の稲もだいぶ成長して、分けつもすすんでいます。10本以上の苗を束にして植えたようなところや、間隔が広いところなどまちまちですが、1ヶ月経ち青々として秋の実りが楽しみでもあります。ところが株間が広めで、去年の除草が不十分だったためか、セリ、コナギなどが威勢良く広がっていました。今回皆さんにはそうした田んぼの草取りに主力を注いでいただきました。草刈り機を持参した方には、水路脇や遊歩道の除草にご協力いただきました。

(6) ザリガニ釣り大会・松子川の生き物観察

平成18年 7月9日(日)、 10:00～11:30

天候： 晴れ、 参加者： 48名



(4F わたしのザリガニ！)



(4-G アメリカザリガニ)

初めに松子川の生き物を観察をしました。網で川底をすくってみんなで調べると、ヤゴやスジエビ、ドジョウ、トビケラの幼虫、勿論ザリガニも、たくさんの生き物を見ることが出来ました。30分余りみんなで観察をしてからザリガニ釣り大会の開始です。

今年は幾分ザリガニの数が少ないようです。去年は入れ食いの状態でしたのでたくさん

釣れすぎるくらいで何十匹も釣った子供が大勢いましたが、今年はどうもそんなわけにはいかないようでした。でも数は少なくとも、お母さんお父さん方も子供以上にザリガニとの駆け引きに真剣になっていました。

中にはザリガニ釣りよりも、ヤゴなど小川の生き物に夢中になってしまいずっとそっちにかかり切りで、ザリガニ釣り大会そっちのけで田んぼの脇の水路で遊んでいる子もいました。最後に釣果をみんなで持ち寄ると、チャンピオンは、親子で62匹を釣った、さげさんのチームでした。

(7) 草刈・水田草取作業

平成18年 7月15日(日)、 9:30~12:00

天候: 晴れ、 参加者: 15名

先月の草取りから1ヶ月が経ち遊歩道や水路脇の草がかなり伸びたために、今回の除草作業の主力はそちらの方におかれましては。

(8) 稲刈り・おだかけ作業

平成18年 9月17日(日)、 9:30~

天候: 曇りのち小雨、 参加者: 41名



(4H みんなで稲刈り)

途中から小雨の混じる生憎の天気と、連休の谷間だったこともあり、残念ながら例年より参加者は少なかったのですが、子供達を含めて集まった40名程は、このところの雨続きでぬかった泥に四苦八苦しながらも、みな楽しそうに作業をすすめていました。稲刈り初体験という方は少なく、作業が進むうちに、稲を刈る、結わえる、運ぶ、稲掛を作る、いつの間にか分業体制が出来ていました。



(4I 田んぼの周りにお田がけをしました)

子供達も、刈り取った束を運んだり、自分でも刈ってみたりと泥んこで奮闘していましたが、休憩をはさんでからは、バッタやカエル、ザリガニなどを追いかけるのに夢中になってしまいました。5月の田植えにも参加してくれた、武蔵野大学の陳先生もご家族で参加しました。田植えの後にずっと、今日の稲刈りを楽しみにしていたそうです。小雨がちらつき始める天気でした

が、昼前にすべて片づきました。

(9) 脱穀作業・黒米刈取り・脱穀

平成18年 10月1日(日)、 9:30~12:00

天候: 晴れ、 参加者: 25名、

稲刈り以来晴天が続かず、イネの乾燥が心配でしたが、やっと数日の天気続き、予定通りの脱穀作業に取りかかる事が出来ました。人数はそれ程多くはありませんでしたが、全員の分業体制に作業はどんどん進みました。

最後の黒米は、相さんが持ってきてくれた足踏み脱穀機を使ってみんなで脱穀の体験です。博物館に入れてもおかしくない品物ですが、相さんの技も年季が入っていてすばらしいものでした。農薬・化学肥料は使用しない田んぼで連作していますし、子供達の植えた後は隙間も多いので収量は少ないですが、成果が味わえる収穫祭が楽しみです。



〈4-J 脱穀後のワラを結束する〉



〈4-K 稲束を運ぶ子供達〉



〈4-L 足踏み脱穀機をみんなで体験する〉



〈4-M コンバインで脱穀〉

(10) 一宮町文化祭展示発表 (活動報告ならびに『いちのみや森林木100選』の発表)

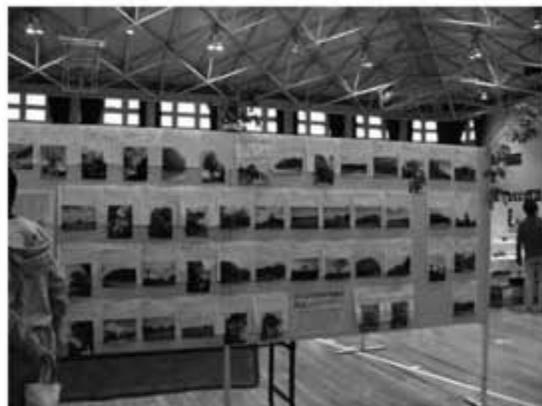
一宮町GSSセンターで開催された町の文化祭では、一年間の一宮ネイチャークラブの活動の紹介をいたしました。年間の行事紹介・松子川周辺の生き物・ホテルの写真や報告・などの他に、「いちのみや森林木100選」の発表も行いました。

この企画は、一宮で残したい木・森・樹木群を広く紹介して、出来る限り多くの方々にこれを見直していただき、みんなの財産として大切にしておくための行事として本年度企画しました。しかし、広報に関して不十分な面があったため、残念ながら当初期待していた程にはご意見をお寄せいただくことが出来ませんでした。

この行事に関する文化祭での発表に関しても、皆さんからお寄せいただいたものを、丁寧に紹介してゆく余裕がありませんでした。やや準備が不十分であったと思います。次年度以降に継続してゆきますので、森林木の推薦やご意見についてもより多くお寄せ頂けるように工夫してゆきたいと考えています。



〈4-N 展示風景〉



〈4-O 展示風景〉



〈4-P 展示風景〉



〈4-Q〉

(11) ビニールハウスの補修作業

平成18年 11月11日(土)、 9:00~11:30、

天候： 晴れ、 参加者： 9名、

メダカ池脇の広場のビニールハウス、が台風などの影響もありかなり破損していました。毎年手を入れてきたのですが、今回大改修を行いました。

原田代表が骨組みとなる太い孟宗竹を準備して下さり、集まった会員の皆さんで組み上

げてゆきました。出来上がってみると、今までのパイプだけのハウスとはうって変わって、どこから押してもびくともしない頑丈なつくりになりました。



〈4-R ビニールハウスの補修作業〉



〈4-S 補修完了〉

(12) 収穫祭

平成18年 12月3日(日)、 10:00~13:00

天候： 晴れ、 参加者： 53名、



〈4-T だまっこ鍋づくり〉



〈4-U だまっこ鍋準備完了〉

ぼかぼかとしたとてもいい陽気に恵まれ午前10時の集合時間前から会員の皆さんは三々五々集まり、にぎやかに準備に取りかかっていました。今年は、ここの水田でのお米の出来が今ひとつだった事は少し残念でした。

このところ当会の開催行事への子供達の参加がやや減少していましたが、幸いにこの日は子供会なども含め、小中学生、一般の方々など50名を超える参加者があり、天気にも恵まれ、和気藹々と楽しい時間を過ごす事が出来ました。

昼食は、ここで収穫した新米を使い、秋田の郷土料理という「だまっこ鍋」作りをしました。子供達も一緒に、野菜を切ったり、黒米を混ぜた新米の小さな団子をつくり下ごしらえをします。

これと並行して、「わら草履作り」に挑戦です。小学生・中学生・お母さん方は、特別参加の三枝さんを講師に、シートの上に材料・道具を広げ、座り込んで作り始めました。なかなか形が整わず、片足分を作るのにもかなり時間がかかります。その脇では、お正月の「注連飾り」作りもすすんでいました。



〈4-V 耕耘機に挑戦〉



〈4W- わら草履づくり〉



〈4-X わら草履づくり〉

広場では、子供達と一緒にメダカ池の脇の畑の一部を耕耘機で耕して、皆さんに菜の花の苗を移植してもらいました。この耕耘機は、今年、宝酒造による「TaKaRaハーモニストファンド」からの活動助成金により購入したものです。

そうこうしているうちに昼食休憩になり、みんなで「だまっこ鍋」をいただきました。草履の方は、殆どの方が片足で終わってしまったようですが、新米で満腹し、例年以上に彩りを深めた山をバックに、皆が楽しく過ごしました。

〔13〕 観察会「冬の森で焼き芋づくり～（春をまつ森の生き物の観察）」

平成19年 2月4日（日）、 10:00～12:00

天候： 晴れ、 参加者： 52名、

昨年の寒さとは異なり、冬とは名ばかりの暖かい陽気に、更に好天にも恵まれ、スタッフも含めると52名にもものぼる皆さんが集まりました。

まず、メダカ池の脇の広場でたき火の準備をし、火勢がややおさまってからそれぞれに用意した芋をうめ、芋が焼けるまでに、憩いの森まで落ち葉ドングリなどを採しながら散策しました。

子供達といっしょに、落ち葉・松ぼっくり・どんぐり・くり…などを拾い、遊びながら広場や林内をぐるっとまわって広場に戻ると芋もちょうどいい具合に焼けあがったところでした。たき火で焼いた芋はとてもおいしく、皆さん大変満足されたようです。

暖かいとは言っても日陰になりやすいメダカ池の田んぼには氷が張っていました。昨年は小中学生達が田んぼの半ばまで入っていても割れないような氷でしたが、今年はそれほどではありませんが厚さ1センチ程にはなっていて、子供達は靴をどろんこにしながら氷を割って遊んだり、アカガエルの卵を見つけて歓声を上げていました。



〈4-Y メダカ池の生き物を観察〉



〈4-Z 焼き上がった芋をみんなで試食〉

5. 各行事の報告 (活動助成関連外の行事)

(1) 「ホテルサミットinいすみ」 平成18年 6/3(土)～4(日)

初日の基調講演に大場信義先生、堂本知事の話があり、2日目は分科会で、参加各団体からの発表・報告と、夜は大原山田地区での観察会があり、2日間にわたり盛りだくさんの内容でした。

当会でも参加し、2日目の分科会では、第1分科会で戸張さんが「松子川周辺のホテルの発生状況について」、第3分科会では藤乗さんが「田んぼの活動を通じてホテルを見守る」をテーマとしてそれぞれ報告しました。



〈5-A 大原,山田のホテル〉

(2) 自然観察会「海辺の生き物の観察」 平成18年 8/6(日)

参加者：20名、うち子供10名



〈5-B 秋山先生の説明を聞く〉

地元にお住まいの元東邦大学教授、秋山先生の指導のもとで、シーサイドオーツカの下の海岸において、「みんなで20種類以上の生き物・貝などを見つけよう」を目標に、ミニ図鑑を片手にして、熱心に海岸を探して廻りました。ほとんどの子供達がこれをクリアーして、ホテルシーサイドオーツカの屋上に移動して最後に海岸線を一望して終了しました。今回はホテルシーサイドオーツカのご協力と秋山先生のご指導をにより、充実した観察会で一宮の海を楽しむ事が出来ました。

(3) 「つくって、あそんで、一宮！」 平成19年 3月11日(日)

参加者：76名、 会場： 一宮町中央公民館、

本行事は、夷隅郡市自然を守る会と茂原自然好きクラブとの協力をいただき、屋内でのクラフトや実験を通じて自然への関心を高められるようなものを目指して実施しました。

第1部の秋山先生の講演は、一宮周辺の海・川などの自然についてのお話を聞きながら、大人も子供も参加して自然について考えてゆくものでした。みんなとても楽しく賑やかにすすみました。



〈5-C 貝メールをつくる子供達〉

第2部は2グループに分かれて、一方はネイチャークラフト、もう一方は顕微鏡と手製の実験器具を用いて、水の浄化実験と水中の微生物の観察をしました。小さい子もミジンコなどに興味津々でした。

(4) 玉前神社 桜開花宣言

平成19年 3月28日(水)、 参加者： 20名、

一宮町には「玉前神社」と言う神社があります。この玉前神社では、毎年9月13日に当地で裸祭りとして有名な12社祭りがあります。平成18年には1200年祭が挙行されました。

当会の提案により、本年からこの玉前神社の本殿前の桜を一宮開花宣言の桜樹として毎年開花宣言を行う事となりました。



(5-D 本殿前にて開花宣言)

6. 「TaKaRaハーモニストファンド」による活動助成金



(5-E)

平成18年度に「TaKaRaハーモニストファンド」からの助成により、管理機、刈り払い機、物置ほかを購入しました。

当会が活動拠点としている、メダカ池・体験水田脇の広場に設置し、本年度から機材・資材の管理、周辺の除草、耕耘などに利用しています。

7. 今後の活動への課題

一宮町は自然環境に恵まれ貴重な動植物も数多く生育していますが、これまでの活動の中で自然や当会の活動への関心をいただける方はまだまだ限られているようです。今後この貴重な自然環境の資源に対してもっと広く、深く、多くの方に関心を持っていただけるようにすることは、当会の目的でもあります。

しかし、当会開催行事への子供達の参加が、近頃やや減少傾向であるため、より多くの方のアイデアやご協力を頂けるようにして行く必要があると考えています。

また当会に対して、地域の自然に対する保護的な活動を要望するような声もお聞きすることがありますが、そのためにはこれまでの活動のような行事などにだけ偏らずに、地域の自然を地道に継続的に調査して行くという機能が重要になってくると考えられます。

こうした今後の課題に対しては、さらに広く当会の活動への周囲からの理解をいただくことと、人的な面での広がりも期待する必要があると考えます。

